



楽しくて力のつく学校

石部小学校 校報 第26号

平成22(2010)年10月18日

電話：77-2030

Fax：77-6733

ホームページ [http://www/.edu-konan.jp/ishibe-el/]

# 「道徳の時間」で使う 郷土学習資料ができました

校報第24号(7月号)で報告したとおり、石部小学校は、文部科学省の「道徳研究指定」を受けています。

子どもたちの自尊心を高めるための取り組みを様々に行っており、「ふるさと石部学遠足」により、「ふるさと意識」を育てることもその一つです。

この度、詩人で湖南省教育委員である野呂 和 先生にお願いして、「ふるさと意

識」を育てるための郷土資料を書いていただきました。10月15日(金)の学習参観の際に、2B・4B・5Aで行った授業は、郷土資料を使用してのものでした。

授業の後には、「郷土の心を伝える」と題した野呂先生の講演会を行いました。参加していただいた、地域の皆さん、保護者の方々、ありがとうございました。



2B「昔の石部小学校」の授業風景  
資料に即した、昔の石部小学校の写真を準備しました。



4B「石部小学校の恩人 神保里 兪さん」の授業風景  
野呂先生もゲストとして、子どもたちにお話。



5A「服部善七と安民米」の授業風景



講演 「郷土の心を伝える」



野呂先生は、◆長い歴史を受け継いで、今私たちが生きていること ◆たくさんの命によって生かされていることに感謝すること ◆自分のことより相手のことを大切にすることが、最高の生き方であること ◆石部には、神保里 兪さんや服部善七さんのように、素晴らしい生き方をした人がたくさんいること ◆素晴らしい人を見習って、しっかり勉強してほしいことを、子どもたちに分かりやすく話してくださいました。

<道徳郷土資料は、次号より、校報裏面に縮小掲載する予定です。>

# 命を守る訓練 3連発

子どもたちには、「子どもは大人から守ってもらえるなどと、甘っちょろいことを考えるな」と言っています。子どもたちには、「自分の命・安全は自分で守る」という自覚を育てる必要があります。そのための訓練を集中的に行いました。

## ◆避難訓練 <10月12日(火)>

私の評価の観点を子どもたちに示しています。3年間（ ）変えていません。

- ①真剣にやっているか
- ②教師の指示に従っているか
- ③5分以内に集合できるか

3年前は、「先生、おれ走れへん」と泣き言を言ったり、「だって放送が聞こえへんもん」と口答えしたり、笑顔でしゃべりながら避難したりする姿も見られましたが、今では大変良くなりました。この日の集合に要した時間4分25秒は、新記録でした。「これだけ上手に出来るようになったので、不意打ちの避難訓練をやりたいのだけれど」と話したら、「やろう！出来る」方に多くの子が手を挙げました。避難訓練も、実践的なものにバージョンアップします。

## ◆DIG研修 <10月13日(水)

・18日(月)>

D I G (ディグ)とは、Disaster(災害)・Imagination(想像力)・Game(ゲーム)の頭文字を取った言葉です。また、Digには「掘る」という意味もありますから、「防災意識を掘り起こす」「災害を理解する」という意味も込められています。

昨年度、「子ども安全リーダー」の方々の協力を得て、子どもたち自身が通学路の危険箇

所をチェックし、写真に納めました。今年は、「石部学区まちづくり協議会 安心マップ作り部会」の方々と一緒に、高学年の子どもが危険箇所を地図に落とす作業を行いました。



18日(月)には、高学年の子どもたちが下級生に危険箇所を教える活動を行います。「子どもが子どもに教えることによって、危険箇所を自覚させる」取り組みです。

## ◆交通安全・自転車教室

<10月19日(火)>

> 学校応援団の方がいてくださるから出来る取り組みです。

従来は信号のある本石部の交差点やそこから続く広い歩道を使って、自転車教室を行っていましたが、今年は、①信号のない交差点 ②旧東海道 ③坂道 ④細い道から旧東海道に出る曲がり角 など、生活道路を使って実践的な自転車教室を行います。

3・4年生の子どもが実践し、低学年の子どもは、3・4年生の自転車の乗り方を見て勉強します。チェックポイントには、学校応援団・石部交番・湖南省安心安全課の方々に立っていただきます。



## 子どもたちの標語が町に出ます

「石部学区まちづくり協議会 安心安全部会」の依頼を受け、夏休みに全員が「防犯・防災」と「交通安全」に関する標語を作りました。過日、各学年で第一次審査の後、校長と安心安全部会の方々とで、第二次審査を行い、優秀賞と佳作を選びました。

第1回として町に出る標語は、各学年の優秀賞である標語です。今後、張り出す場所を変えたり、佳作の標語も張り出したりしますので、様々な子どもの作品がお目にとまることと思います。

子どもたちの作品が、まちづくりに役立つことをうれしく思います。

---